

第3編

● 7月3日（金） 霧 移動・摩周温泉へ（ホテル ニュー子宝泊）

・朝4時半 外は一面の霧。 気温12℃。

周りには滞在している車が10数台駐車している。牛乳、コーヒーにサンドイッチで朝食を、今朝はトマトが一つ付いた。

7時を過ぎた頃霧が晴れて太陽が顔を出してきた、久しぶりで見る太陽だ！

7時半 スタンプラリーのスタンプを押すために隣の道の駅「コスモール大樹」へ向かって出発した。すぐ近くなので10分位で到着、まだ朝早いので閉まっているが、一昨年も忠類からアポイ岳へ向かったときに寄ったことを思い出した。

<コスモール大樹>

その時も朝早くて閉まっていたので通過しただけだったと記憶がよみがえってきた。

・今日も開店までまだ1時間近くある。ここは泊まりにくいのか泊の車は無いし、駐車場にはトイレ利用の車がちらほら出入りするだけだ。隣に真っ赤な大きな寺の山門が見えたので行ってみたら、北海道88カ所「高野山寺」という立派な寺だった。道路に「カムイコタン」の標識があるので、開店までに時間があるので、どなたところか行ってみることにした。

片道8kmの車の通らない舗装道路をのんびり走り、うっかりすると見落とすような小さい標識「カムイコタン」が示す細い砂利道を左に入った。すぐ行き止まりで狭い広場、いったい何が「カムイコタン」だか分からないまま引き返した。



<駅舎の残る道の駅「ほんべつ」>

・9時の道の駅「コスモール大樹」開店とともにスタンプを押してすぐに本別へ向かった。

107番目に今年出来た駅「ほんべつ」は駅舎の跨線橋と線路の一部を残した小さな駅で特に何も無い。一休みして白糠恋問へと南下した。時速80kmの快走で、昼過ぎに白糠へ到着、道の駅「しらぬか恋問」は恋問海岸に建つ大きくてなかなかきれいな駅で車と人でいっぱいだ。



<白糠では服と靴を乾かした>

久しぶりで太陽が輝き暑い。海岸のベンチに座り途中で購入してきた割子蕎麦を食べながら、昨日のアポイ岳で濡れた服と靴を駐車場の舗装に広げて乾かした。

・ここからは北上して道の駅「阿寒丹頂の里」へ。駅は小さくてこぢんまりしているが、道を挟んで向こう側にレストランや日帰り温泉の施設「赤いベレー」があって、泊まるのにも良い駅だ。駅に隣接する「世界つるセンター」に400円払って入ってみた。丹頂鶴を中心にした博物館と放鳥地で、お姉さんが案内してくれてなかなか面白かった。



・約1時間車を走らせて「大津つりセンター」へ向かった。今朝電話を入れておいたが2年振りの再会だ。

お互いにあまり変わっていない（当然）。30分位いろいろお話して今日の宿泊地摩周温泉へと向かった。別れ際にご主人も帰ってきてお会いできた。

＜道の駅「阿寒丹頂の里」＞



＜ホテル「ニュー子宝」＞

・今日は誕生日なので摩周温泉のホテル「ニュー子宝」に宿を取った。4時過ぎに到着。古いがなかなか大きくていいホテルだ。部屋もツインベッドで広々、誕生日祝いとしては大成功だ！温泉にゆっくり入り、生ビール、地酒「子宝」でささやかに誕生日を祝った。パソコン整理もそこそこに良い気分ベッドに入った。

・明日は摩周岳（カムイヌプリ）に登る予定、今日は天気良かったが明日はどうだろうか？

● 7月4日（土） 霧 「摩周岳（カムイヌプリ）」（857m）

・朝4時半に起床、パソコン、日記など昨日の整理を行いながら朝食を待つ。朝食は7時から。外は一面の霧で天気はあまり良く無さそう。カムイヌプリに登る予定だがどうするか。8時にとりあえず摩周湖へ向けて出発した。15分ほどで摩周湖第一展望台に到着、410円



＜霧の摩周湖駐車場＞



＜摩周岳登山口＞

払って登山者用駐車場に車をとめて登山の準備をした。一面濃い霧で視界も悪いが

雨は降りそうに無いので8時20分に摩周岳へ向け出発した。摩周岳（カムイヌプリ）は摩周湖の展望台から眺めると対岸に聳える尖った山で見るたびに登ってみたいと思っていた山だった。標高差は300m位でたいしたことは無いが、摩周湖の湖岸の尾根道を、登り下りを繰り返しての片道7kmと行程は長い。

・濃い霧の中、笹やフキの葉をかき分けて細い道を歩くので足は露でびしょ濡れだ。スタートがちょっと遅いし登山者が誰もいないしガスで何も見えないのでやや気味悪く、熊よけの鈴をジャンジャン鳴らしながら黙々と歩いた。ただチシマフーロが道の両側に咲いていて気持ちは良い。西別岳分岐近くなったら蚊が大量に発生しだし、顔や手に群がりだして偉いことになった。ちょっと立ち止まると蚊の大襲撃を受けるので写真を撮ることも休憩する事も出来ない。霧も薄くなり薄日も差すほどで暑いのに、長袖に手袋の完全防備で立ち止まれずに歩きっぱなし。



＜摩周岳山頂＞

サウナ状態で汗まみれになりやっと頂上に着いた。ここまでの道は白樺や種々の灌木の林の中の笹原を踏み分けての道なので風も通らず蚊も絶えることなく群がっていたが、ここ頂上は岩や砂のガレ場で木が無いので風が通って涼しく蚊もいない、やっとゆっくり休めた。

・4、5人も座れば一杯になってしまう狭いガレ場の山頂は、周りが切り立って危険なうえあいにく霧で展望は無かったが、エゾツツジ、ヨツバシオガマ、キクバクワガタなどが



＜キクバクワガタ＞



＜エゾツツジ＞

咲いていて楽園と言う感じだ。幸い登山者は私以外にいなかったなので、花に囲まれた山頂に40分も滞在し、11時に下山開始した。帰り道では霧も晴れて視界も開け、眼下に摩周湖が見え隠れしだした。ただ摩周岳の頂上だけは最後まで雲がかかっていた。道には蚊の大群が待ち受けているので休むことなく2時間余歩きっぱなしで13時過ぎに駐車場付いた。途中登ってくる登山客数パーティーとすれ違った。駐車場からは今歩いてきた尾根道が摩周湖に美しく映えて見えた。



＜ 駐車場からは今歩いてきた尾根道が摩周湖に美しく映えて見えた。 ＞

・駐車場で一休みしてこれからの行動予定を検討、予定では道の駅「あいおい」だがここには風呂がない。今日は蚊対策のため長袖で歩いたので汗まみれ、なんとしても温泉に入ってゆっくりしたい。地図を見ると少し北へ行くと道の駅「パパスランドさつつる」がある。ここは昨年も泊まったが温泉完備の良い駅だ。コースから少し遠くはずれるが今夜はここに決めた。

・途中硫黄山に寄った。毎年摩周湖へ来ていながらすぐ隣にある硫黄山へ寄ったことがない。



＜初めて硫黄山に寄った＞

今年はやっと寄ることが出来た。摩周湖の駐車券でここ硫黄山の駐車場にも止められる。そこら中から水蒸気を噴出している硫黄の山でそれなりに迫力があり面白かった。



＜斜里岳が頭を出したパパスランド＞

・道の駅「パパスランドさつつる」は斜里岳を眼前に見る畑の中にあって温泉は公立のため380円と安いしレストランも設備されている。天気はすっかり回復して太陽も顔を出し斜里岳が遠く雲の上に頭を出している。ゆっくり温泉で疲れを癒し、缶ビール2本と酒少々で乾杯。メインディッシュは具沢山の焼きそば。良い気分で寝る支度。すると左隣に北九州のご夫婦のRAV4が、右隣に大宮の男性二人の乗ったバンが駐車してきた。広い駐車場、止め

るところはいくらでも空いているので、もっと離れて止めればいいのに！！

まあいいわ、こちらはもう出来上がっているのので寝る。今7時半、Good Night!

*今日霧が濃かったがカムイヌプリに登っておいて良かった。明日も天気は良くないらしい。

*泊まる場所を「あいおい」からここ「さつつる」に変えてよかった。風呂は安いし天気は良いし、斜里岳を目の前に見ながら寝に入った。

● 7月5日(日) 快晴 移動(札弦～網走～しほろ温泉)

・朝4時半起床。隣の大宮の男二人は、今日斜里岳へ登るというのにまだ寝ている。斜里岳は山頂付近に雲がかかっているが山麓はよく見える、天気は良さそうだ。隣のRAV4のご夫婦もまだ寝ている。サンドイッチ、牛乳、アロエヨーグルトで朝食を摂り、まず洗濯から始めた。洗濯物を干しながら、バケツに水を汲んで来ては車の洗車も行った。そうこうしているうちに周りの車はすべて何処かへ出ていってしまい残るは私の車一台のみとなった。

天気は良く太陽の日差しが暑くて気持ちが良い。

・今7時半、今日は移動日で明日は東ヌプカウシヌプリに登ってから層雲峡へ入る予定。

さて今日はどこへ泊まろうか、予定では鹿追だが途中スタンプを集めながらの道の駅めぐり、鹿追まで行けるかな？ とりあえず北へ向かって小清水のスタンプを、と出発準備をした。

さてエンジンを掛けたらかからない。またバッテリーがあがっている、えらいこっちゃ。恥ずかしながらまたJAFを呼んだ。



<小清水原生花園はエゾカンゾウが満開>

・約30分のロスで小清水へと向かった。とにかくバッテリーを新調しないとこれから怖くて回れない。網走のホームセンターへ飛び込んだが私のバッテリーの型番だけが置いてない。ナビで探してイエローハットに寄り 5980 円で購入。天気はどんどん良くなり網走は快晴で真夏の太陽が照りつけメチャ暑い。炎天下で大汗を流しながらバッテリーの交換を完了、これで安心だ。もう11時近くになっている。

・今年網走に出来た道の駅「流氷街道網走」へ寄ったが、「ウトロシリエトク」と非常によく似た作りのすばらしい駅だ。昼間だからか車も客もパラパラしかいない寂しい駅だった。

鹿追に向けて南下、真夏の太陽を受けて美しく輝く網走湖を右に見て湖岸のすばらしい道をぶっ飛す。



<新設・流氷街道網走>



<メルヘンの丘・めまんべつ>

・道の駅「メルヘンの丘・めまんべつ」相変わらずメルヘンチックな可愛い駅だ。

・道の駅「あいおい」昨夜止まる予定だったが「さつつる」に変更したため、今日は通過。

ちょうど昼を過ぎたので例によって名物のもりそばで昼食をとり先を急いだ。

・道の駅「あしよろ銀河ホール21」は工事中だったが出来上がればかなり良い駅になりそうだ。丘の上の「足寄湖」に寄って「ピア21しほろ」へ着いたらもう4時近くになっていた。今日は「しかおい」まで行かずにこの辺に泊まろうと、温泉のある「しほろ温泉」で今日は終了。

明日の宿の予定「層雲峡ユースホステル」に電話を入れて予約を取り、いろいろ買い物をしようとしてコンビニを探したら、今来たばかりの「ピア21しほろ」のそばにしかない。早く調べればよかった。仕方なく来た道を片道約8km走ってコンビニを往復した。



<あしよろ銀河ホール21>



途中は広々としたじゃがいも畑の中を真っ直ぐ走る実に気持ちの良い道、おもわず車を止めて写真を撮ったりした。

・しほろ温泉でゆっくり風呂に入り野菜具沢山のラーメンで夕食。周りには宿泊車が10数台とまっていて、隣は神戸のご夫婦、いろいろお話をした。

・今日はJAFを呼んだり、網走でバッテリーを交換したりして出発が遅くなったわりには良く走った。風呂に入って夕食が済んだら7時を過ぎていた。天気が良いので外はまだかなり明るい。バッテリーあがり怖いのでラジオ、テレビはつけないようにし、8時過ぎに寝についた。



<しほろ温泉>

● 7月6日(月) 晴 「東ヌプカウシヌプリ」(1252m)

・朝4時起床、快晴だ！北海道へ来て朝を快晴で迎えるのは初めてだ。今夜は層雲峡YHに予約できているし、道の駅スタンプ集めも道の駅の開館が9時半だから時間がありすぎる。東ヌプカウシヌプリは往復2時間だから、行動を起こすのはゆっくりでいい。「天気がいいから布団でも干すか」と車や椅子の上に布団を広げて干した。

・朝食をとり、日記を書いて、これからのことなどいろいろ調べ物をして、今まだ7時前だ。隣にいた水戸の軽自動車、神戸のご夫婦、和泉のご夫婦など次々に出ていって、屋根やドアに布団を干している私の車一台になった。まず寄ろうとしている道の駅「おとふけ」まではせいぜい40～50分も走れば着く。布団を取り込んで8時過ぎに出発した。とにかく道が良くて車もないのでゆっくり走ってもナビで計算する時間の7掛けくらいで走ってしまう、



<晴天に布団を干した・しほろ温泉>

9時前に音更へ着いてしまった。当然道の駅「おとふけ」は開いていないし、真夏の日差しがガンガンと照りつけ暑くてたまらない。駅のおばさんが親切にもドアを開けて入れてくれたので9時過ぎスタンプを押した。



<道の駅「おとふけ」>

・次は鹿追だ。昨年偶然にも泊まって印象の良かった道の駅「しかおい」はやはり立派な駅だ。札幌のご夫婦に話しかけられ「湘南からですか、道央の伊達市は「北海道の湘南」と言われていて、とても良いところですよ」と。

私は昨年行っており、なかなか裕福そうなきれいな街だったとの印象がある。

・次は瓜幕。道の駅「うりまく」は馬の駅で乗馬の体験コースがあり、なかなかユニークな駅だ。まだ朝早いせいか誰もいない、スタンプを押してすぐに然別湖へ向けて出発した。



<道の駅「しかおい」>



<道の駅「うりまく」>



＜白樺峠の登山口＞



＜東ヌプカウシヌプリ山頂＞

・大雪山へ登るため層雲峡入る道の途中の然別湖の周辺には手軽な山が色々ある。昨年は白雲山に登ったが、今年は東ヌプカウシヌプリを登ってみた。片道1時間もかからないような丘みたいな山で、アイヌ語では「野原の上にいっしやる山」という意味だそうだ。

・白樺峠に登山口があるが駐車場なんて物はない。

10時50分白樺峠の道端に車を止め立派な「登山口の標識」から草原の踏み分け道を登りに入る。山頂まで針葉樹林帯や広葉樹林帯をあるいて最後はダケカンバ林の中を快適に歩く。

山頂からは農耕地が延々と海のように広がる十勝平野と



＜峠の道端に車を止める＞

その向こうに聳える日高山脈の眺めがすばらしい。花も意外に多く、ハクサンチドリ、ミヤマオダマキ、ゴゼンタチバナ、ツマトリソウなどなどハマナスやイソツツジも咲いていた。誰もいない頂上にしばらく居て、下りは約40分で峠に着いた。結局だれ一人出会った人はなかった。峠には結構色々な花が咲いていて良い所だった。

・昨年と同じく然別湖のキャンプ場でカップラーメンの昼食を取り、層雲峡へ向かった。3年連続で層雲峡ユースホテルにお世話になったが、いつも変わらず穏やかな若いご主人が迎えてくれる。今日は103号室の六人部屋だ。まだ誰もいない。早速ホテルの風呂へ行ったが、今回は「ホテル大雪」に行った。今までの「ホテル朝暘亭」より良い風呂だった。部屋に戻ってパソコンに今日の整理をしていると隣のベッドにおじさんが入ってきた。声を掛けたが無愛想でろくに返事もせず、そのまま沈黙。

・六時半に夕食、鶏肉のシチュウ風の料理を主に色々盛りだくさん、満腹。食堂には10人くらい居たが、みんな黙々と食べており、会話が無い。これでユースホテルか！昨年は若

い男性と山の話で楽しく食事をした記憶があるが、今年も孤独だった。歯を磨いてすぐベッドに潜り込んだ。

まだ8時、明日は緑岳、天気は良さそうだ、早く起きて出かけよう。おやすみ！



一直線に延々と続く大雪への道



途中の「扇が原展望台」